

04 松前神楽

道南の城下町で生まれ、地域の風土に溶け込み洗練された伝統芸能

東北から中部地方に広く伝わる伊勢神楽と、日本舞踊の田楽が組み合わさり、蝦夷地特有の神事的要素を取り入れながら神官に継承されてきた伝統芸能で、北海道無形文化財の第1号です。松前藩主が城内で演技した、1674（延宝2）年が公式な始まりとされます。神前に向かって神歌（じんか）を唱えるという本来の意味合いは変わらないものの、演目によって異なる33座が現代に伝わります。手足などの動きが伴奏に合致する洗練された舞いで、現在は函館、松前、福島、小樽の神社が各地域の特性を持ち寄り、国の無形民俗文化財指定に向けて活動しています。



問い合わせ先	松前神楽連合保存会 事務局・福島大神宮
電話番号	0139-47-2062
FAX番号	0139-47-2088
編成	舞手（1～4人）、大太鼓、小太鼓、龍笛、手拍子
出演時間	1座2～10分
出演料	応相談
備考	出演時間や出演料は内容により変動します。



まゆ毛、口ひげ、あごひげが長く伸びた白い面を装着して踊る「翁舞（おきなまい）」。息災延命や立身出世を祝う意が込められています。心やさしく、顔にしわを寄せても体の丈夫な老翁が、長い年月の間にあらゆる苦労を重ねていく甲斐あって、めでたく高い身分に即位する姿をおごそかな舞いで表現します。国の古典芸能のひとつである能楽の要素が色濃く表れていて、喜怒哀楽を描写した上下動のある動きが見どころです。

若手神職者と外国人留学生との交流会の様子。頭を噛まれた人に幸運をもたらすという日本古来の伝統を受け継ぐ獅子舞の披露は、海外では見られないという物珍しさも手伝ってか毎回好評を得ているようです。このほか、老人介護施設や幼稚園などへの定期的な慰問を通して幅広く周知に努めています。観覧者は厳粛な舞いにじっと見入ったり、手拍子を打ったり、中には一緒に踊り出す人、感動のあまりに涙を流す人もいるとのこと。